

ジェネリック医薬品の使用促進で 3か月累計約450万円の薬剤費削減

共済組合では、慢性疾患で医療機関にかかっている方を中心に、ジェネリック医薬品差額通知を発送。あわせて共済だよりなどを活用した啓発も行き、薬剤の切り替えについて協力をお願いしました。

差額通知発送の概要

- (1)通知発送月 平成24年11月
(2)通知対象者

- ①40歳以上の組合員及び被扶養者のうち脂質異常症・糖尿病・高血圧症の薬を服用している方で差額が500円以上見込める者 総計:2,208件
②全組合員及び被扶養者のうちアレルギー性鼻炎・花粉症の薬を服用している方で差額が300円以上見込める者 総計:3,646件

差額通知によるジェネリック医薬品への切替状況

通知後3か月間で効果の測定を行いました。

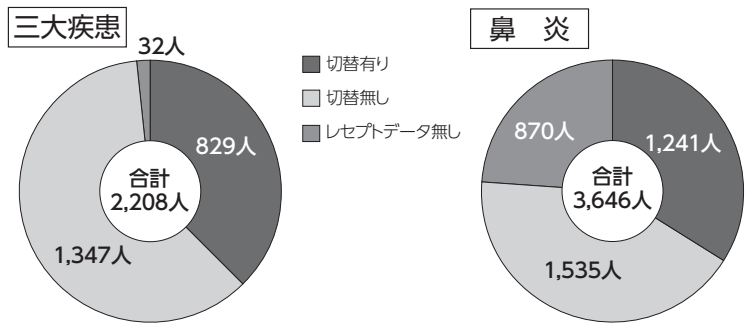
この結果をみると、①三大疾患では、829人がジェネリック医薬品に切り替えており、人数では約37.55%の方が切り替え、金額においては1か月平均104万7千円の薬剤費削減となり、保険者70万円本人30万円程度の削減となります。

一度切り替えた薬剤はほとんどの方がそのままその薬を服用すると考えられるので、年間にすると1,200万円程度の削減が見込まれ、通知者の薬剤費月額総計2,500万円の約4.06%となります。

薬剤の数量は月平均868個17.22%の削減となっています。

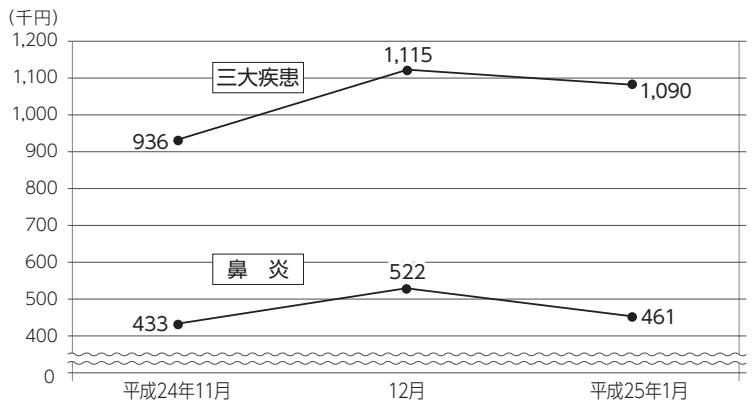
切替人数割合

※平成24年11月から平成25年1月の間に新たにジェネリック医薬品の使用が確認できた人数

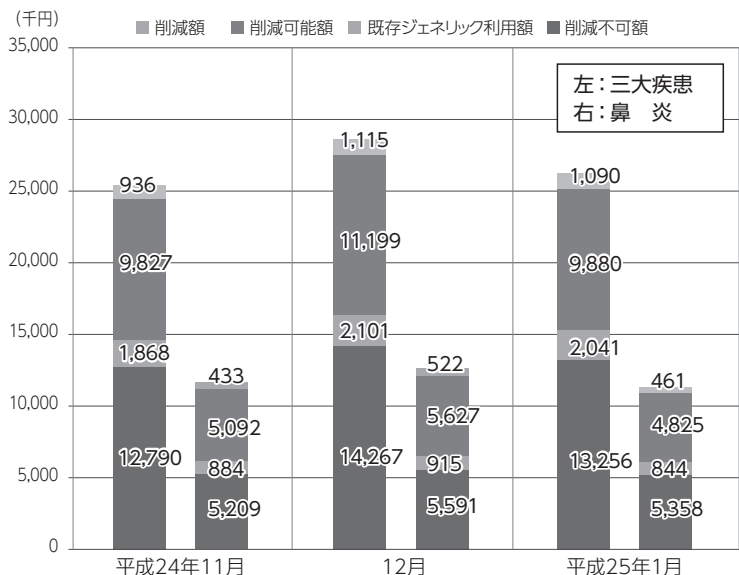


削減額推移

※削減額は「切り替えたジェネリック医薬品の薬剤費」と「切り替えたジェネリック医薬品が先発薬だった場合の薬剤費」の差



削減額と削減可能割合の推移



また、②鼻炎等にかかる結果は通知者3,646人、切り替え者1,241人は34.04%にあたり1か月平均削減額47万2千円(保険者33万円本人14万円)の削減となり年間560万円が見込まれ、通知者の薬剤費月額総計1,100万円の4.12%になります。

薬剤の個数は平均938個(14.32%)です。

3か月の総計では、医薬品の個数5,400個が切り替えられ、金額においても450万円の累計となるので、今後も引き続き、ジェネリック医薬品の利用促進にご理解とご協力をお願いいたします。